

# 令和4年度 鹿児島学習定着度調査の結果について

令和5年3月

鹿児島市立松原小学校

- 【学力調査】 令和5年1月17日(火)・18日(水)に実施
- ・ 小学校第5学年(国語、社会、算数、理科)
  - ・ 「基礎・基本」と「思考・表現」に関する内容の調査
- 【学習状況調査】 児童の学習に関する意識や学び方などの調査

このような問題が出題されました(社会)  
 ニュース記事やグラフなど複数の資料を基に、事実や意見を分けて書く問題  
 (思考力・判断力・表現力の評価)

## 1 本校の結果について (R4年度)

鹿児島県平均を100としたときの松原小の比較

	国語	社会	算数	理科
松原小学校	95	106	95	97

【結果分析から分かったこと ○成果 ●課題】

〈国語〉

- ローマ字の書き取りや漢字の読み書き、慣用句等の理解
- 事実と感想、意見を区別するなど話の構成を考える力

〈社会〉

- 大陸の名前や季節風などの用語、日本の領土や位置などの理解
- 気候と農業の特色との関連を考えて書く力

〈算数〉

- わり算や複数の図形を組み合わせた図形の面積を求める技能
- 面積の求め方の解釈を言葉や式を用いて説明する力

〈理科〉

- 水蒸気やでんぷんなど基礎用語、金属の温まり方などの理解
- 乾電池のつなぎ方と電流の大きさや向きなどを関係付けて考える力

## 過去3年間の結果との比較

年度	国語	社会	算数	理科
R1	90	91	99	89
R2	93	94	104	88
R3	87	78	63	81
R4	95	106	95	97

【県平均と比較したときの考察】

- ・ 社会は県比較で6ポイント上回ることができた。
- ・ 国語・算数・理科もあと1問正答すれば県平均を超えられる。
- ・ 国語、社会、理科は過去4年間で最もよい正答率であった。
- ・ 無答(答えを空欄にしてしまうこと)の割合が低くなっている。最後まで解き切る力が付いてきたと考えられる。
- ・ これまで県比較9割に届かなかった理科が向上し、県平均に近づいてきている。

この複合資料には、オーストラリアの干ばつに関するニュース記事、オーストラリアの農産物輸出額に関する表、食料品別の輸入量の変化を示す折線グラフ、そして日本と主要国の食料自給率の比較を示す折線グラフが含まれています。

Aさん: 日本の食料自給率は、1970年から2013年の間で、約(1)％少なくなっているね。  
 Bさん: そうだね。その理由の一つとして、外国からの輸入量が増えたことが考えられるね。その中でも、2017年に、最も多く輸入している食料品は(2)であることが読み取れるね。  
 Cさん: 外国産の農作物は国産と比べてねだんが安いから、消費者にとってうれしいね。だから、これからは、外国産の農作物や食料品の輸入をさらに増やしていく必要があると考えるよ。  
 Aさん: でも、輸入にたよりすぎると、消費者にとって困ることもあるよ。例えば、外国で長い間雨がふらないことで干ばつが起きたときに、必要な量の作物を輸入できず、わたしたちの食生活が不安定になることが考えられるよ。  
 Cさん: 確かにそうだね。やはり、輸入にたよるだけでなく、日本の食料自給率を上げていくことが大切だね。そのために、消費者であるわたしたちにできることとして、(3)ことが考えられるね。

①

②

③

次に、ひろみさんは、 $90 \div 0.6$ の計算の仕方について、下のように考えました。

【ひろみさんの説明】



0.1のいくつ分かで考えると、0.6は0.1の6分になります。  
 0.1m分の重さは、 $90 \div 6 = 15$ という整数のわり算に表すことができ、15gとなります。  
 0.1mの10倍が1mだから、  
 1m分の重さは、 $15 \times 10 = 150$ なので、答えは、150gです。



ひろみさんも整数のわり算に表して考えているね。  
 1.6mで320gの重さのはり金の1m分の重さも同じように考えることができるのかな。



1m分の重さを求める式は、 $320 \div 1.6$ になるね。

(4)  $320 \div 1.6$ について、【ひろみさんの説明】と同じように、0.1のいくつ分かで考え、整数のわり算にして説明すると、どのようになりますか。言葉と式を使って書きましょう。

このような問題が出題されました(算数)  
 小数のわり算の計算方法を、これまでに学習した知識や技能を組み合わせて説明する

## 2 学校全体での学力向上対策

- 「分かる・できる授業」を目指し、ICT機器を活用した教育方法改善と指導法改善を行う。
- 朝の活動25分間のチャレンジタイムを充実させ、基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る。
- 基本的な生活習慣(生活リズム)と家庭での学習習慣を確立するため、生活実態調査(メディア使用、学習時間等)の実施や、家庭学習課題(日々課題、週末課題)の取組等を充実させる。